弘前大学資料館第37回企画展

撮る・残す・活かす

― 映像資料と東北の民俗 ―

2024.11.1(金) – 12.26(木)

10:00–16:00（日・祝休館）

録音機器、ビデオカメラやスマートフォンの普及とともに、私たちは高画質デジタル音声・写真・デジタル映像を気軽に撮影できるようになり、私たちにとって写真や映像がより身近なものになりました。人びとが撮影した写真や映像は、個人的な経験の記録としてスマートフォンのなかにデジタルデータとして保管されるほか、SNSを通じて社会に発信されたり、仲間内で共有されたりしています。

人びとが撮影する音声や画像、映像は、たんなる「情景の記録」に留まらず、写メという言葉にあらわされるように、メモとしての役割も果たしています。そのようにして蓄積する「メモ」は、振り返ったり、過去と現在との比較のためにも使われます。現代の音声・写真・動画が記録としてあふれる時代に、私たちがくらしをみつめるまなざしは、どのように変わっていく可能性があるのでしょうか。

この展示では、上記の関心のもとに、青森県をはじめとする東北の伝統芸能やくらしなどの民俗に焦点を当て、学術的な意味で、あるいは観光的な文脈で記録されてきた写真・映像、くらしのなかで瞬間の記録として記録されてきた写真・映像などをとりあげ、録音、写真や映像を撮影し、残すこと、そしてそれらを活かす可能性を検討します。

【展示内容】

1. 手軽な記録装置スマホのなかの記録たち
2. 記録と編集が容易な時代の民俗学
   - ・他者への視点
   - ・撮る側と撮られる側
   - ・映像編集の技術と展開
3. くらしをみつめるプロたちによる歴史的記録
   - ・青森県立郷土館が残した映像記録
   - ・研究者の調査ノートとしての映像記録
   - ・「文化財」としての映像記録
4. 記録装置の技術的変化と民俗学
5. 映像とエピソード、そして活用

青森県民俗文化財等保存活用委員会が作成した報告書と映像

岩木山神社の七日堂祭